



第18号 2017.1.1 発行
 発行者：株式会社協進印刷
 編集者：JO 編集委員会

発達障害でも活躍できる 「自立した学習者」を育てたい

ラーニング・クエスト学習センター 代表 天田武志さん



サラリーマン時代に自らの能力向上のために始めたアメリカ発のエクササ
 イス「ブレインジム」と、イスラエル発の「フレイヤーシユタイン学習プロ
 グラム」を組み合わせる独自の発達障害児支援メソッドを確立し、2012
 年に独立起業。保育園から高校生まで幅広い学習支援活動を展開している。
<http://www.manabi-bouken.net/>

例えば保育園では、2つの点と点とを線
 でつなぐという課題をやるのですが、これ
 には点から点へきちんと線が引けるかとい
 う運筆や、1対1対応を理解させるなどい
 くつかの目的があります。1対1対応とい
 うのはとても大事で、実生活でいうと自分
 の靴は自分の下駄箱に入れるというような
 ことですが、これができないと後々算数の
 学習がかなり難しいようです。この課題を
 集中的にやることで、左右を逆に書いてし
 まう鏡文字が直ったり、数字の2を逆から
 書いてしまうようなことが直る子もいます。

天田：元々はサラリーマン時代にブレイン
 ジムを習ったんです。ブレインジムのキャッ
 チフレーズが「身体を動かすことで脳の機
 能を整える」ということだったので、それ
 はもっともだなあとあって、自分の仕事の
 パフォーマンスを上げるために始めたのが、
 もう10年以上前のことです。特に劇的な変
 化があったわけではないのですが、背中の
 ハリが楽になったりそれなりに効果はあっ
 たので、おもしろがってやっていたら、そ
 のうちインスタクターになってしまいま
 した。そしてちょうどその頃「発達障害」

江森：天田さんは発達障害児の症状を改善
 しながら、自ら学習できる環境を整える「塾」
 を主宰されているわけですが、具体的には
 どんな活動をされていますか。

天田：横浜市青葉区のおさみ野に教室があつ
 て、そこをメインに活動していますが、週
 に1、2回は外でも教えています。ここは保
 土ヶ谷駅前にある「カルチャーズデイ」と
 いう学習支援が必要な子供たちのための放
 課後デイサービスですが、週に1回来てい
 ます。他には保育園などにも行っています。

私の教室は、「ブレインジム」「リズムミッ
 クムープメント」「フレイヤーシユタイン教
 育プログラム」という3種類の教育プログ
 ラムを組み合わせて、ひとり一人にあわせ
 て学習計画を立てて実施していくのが特徴
 です。「ブレインジム」「リズムミクムー
 プメント」は脳の働きと身体の動きの連携を
 スムーズにするためのエクササイズ、「フレイ

ヤーシユタイン」は認知機能を高めるた
 めの教育メソッドです。

江森：先日私もフレイヤーシユタインを体
 験させていただきましたが、すごく脳が活
 性化されて達成感もあるし、論理的思考力
 とか段取り力を鍛えるには良いプログラムだ
 と感じました。

天田：「フレイヤーシユタイン教育プログラ
 ム」は、イスラエルのルーヴェン・フレイ
 ヤーシユタイン教授が開発したプログラム
 ですが、著名な発達心理学者であるジャン・
 ピアジェの弟子であるフレイヤーシユタイ
 ンの教育プログラムは、ピアジェの理論が
 ベースになっているのです。先日江森さん
 に体験してもらったのは、ピアジェの発達
 段階説というところの「形式操作期」とい
 う発達の最終段階に対応しているものです
 が、発達の段階によって様々な課題が用意
 されています。

江森：それは興味深いですね。

天田：ピアジェは人間には4つの発達段階
 があるとたっただけで、下位の発達段階で
 止まってしまっている人に対するソリュー
 ションは提供しなかったのですが、フレイ

という障害があるというのを知って、もしかしたらブレインジムの発達障害に有効かもしれないと思っようになっていきました。まだ日本ではブレインジムの発達障害児の学習支援に応用するなどということをしている人はいなかったのですが、教員OBの知り合いに相談したら、じゃあ一人見てもらいたい子がいるからと言われて、その子の家庭教師になりました。ところが、いざ家庭教師をやってみると、それこそその子の人生に深く関わることになり、やればやるほど「これは片手間じゃダメだな」と思うようになりました。

しかし「学習」ということを考えると、身体を動かしているだけではなかなか伸びていかないと、ところどころで、ブレインジムとの間をつなぐものはないかと探していたところ、フォイヤーシユタインを見て、神戸まで勉強しに行きました。そして、たぶん日本では初めてだったと思いますが、ブレインジムとフォイヤーシユタインを複合した学習支援のための塾を、思い切っって始めることにしたのです。

江森：知り合いの教育関係者に発達障害児のことをきくと、ほとんどの方が実感として増えていると言っているのです、たぶん本当に増えているのだと思います、それにっれて支援機関も増えていると思いますが、状況は改善はしているのでしょうか。



天田：大手の発達障害児向けの学習塾では、わかりやすい教材を用意して、先生の数を増やすなど、従来の方法の延長線上のやり方ですが、そこをやめてウチに来る生徒は結構多いんですね。ウチはまったく考え方が違うので競合しているわけではありませんが、保護者としては従来のやり方にピンときていないところもあるみたいですね。

公立の学校でも特別支援級とか通級などの支援制度がありますが、結局はマンツーマンで先生がついて、その子がつまづいたところまで戻って教えるだけで、教える方は同じなので、また同じところであつまずいて堂々巡りになる可能性が高いですね。

江森：そのあたりが従来型メソッドの限界なのかもしれませんね。このまま発達障害の子が増えていくとなると、いまは支援級にしても、この場所のようなデイサービスにしても、福祉の領域でケアできているし、高齢者福祉に比べれば対象者が圧倒的に少ないから表面化しないのかもしれないが、そのうち困ったことになるのではないかと心配しています。やはり発達障害の人も稼ぐ側にまわってもらおうようなサポートをしないといけないと思うのですが。

天田：その通りですね。いまは塾というスタイルでやっていますが、今年には通信制

高校のサテライト教室を開設する計画をしています。高校までつなげることで、就労支援まで踏み込んでやっていきたいと考えています。

江森：企業に対しても発達障害者への対応のノウハウを教える必要があるのではありませんか。

天田：そうですね。知的に問題のない発達障害者の場合は、周囲に理解者がいれば、問題の大部分は解決すると言われていますから、受け入れる企業内にそうしたノウハウがあるかないかということは、発達障害者が働くうえでとても大切なことだと思います。いまは企業側も基本的には発達障害者は受け入れたくないのじゃないから、そこで落ちこぼれた人がニート・引きこもりになってしまっっているというのが現実です。

江森：いったんニート・引きこもりになっってしまうと、普通の生活に戻ったり、就職したりということが難しくなっってしまうので、そつならないように学生の頃からサポートしてあげることが必要なんだろうと思います。そういう意味では、私も出前授業などをしていますが、高校でのサポートはとても大事だと感じています。

天田：そうですね。でもいまの高校の制度だと知的に問題がない発達障害の子たちが支援されるような場がほとんどないというのが現状です。支援さえしてあげれば、社会で活躍できる可能性があるのに、本当にもつたないことだと思います。

江森：これから毎年リタイアする人が大量に発生して労働人口がどんどん減っっていくなかで、うまくやればタックスペイヤーになれる人が福祉で面倒みてもらう側にまわっってしまうというのは、実は大問題ですよ。

天田：イスラエルでフォイヤーシユタインを学んだダウン症の人たちの中には、普通に就職して社会で活躍している人もたくさんいるとききます。日本でも発達障害者に対するサポートはもつと真剣に考えるべきでしょうね。

江森：今後の目標を教えてください。

天田：フォイヤーシユタインが提唱している学習プログラムの目標は「自立した学習者になる」ということなんです。では「自立した学習者」とはどんな人かというところ、自ら問いを立て、考え、それを人前で表現して、なおかつ行動できる人のことです。ブレインジム、フォイヤーシユタインというメソッドを使って、そういう人をひとりでも多く育てていきたいと思っています。それにはまず目の前の目標として通信制サポート校の開設に全力を注いでいきたいと思っます。



学習支援型放課後デイサービス
カルチャーズデイ

今回取材協力いただいた保土ヶ谷駅前にある学習支援が必要な子供のためのデイサービス「カルチャーズデイ」。各種学習プログラムのほか、宿題をみてるなどのサポートも充実。

<http://www.cultures.co.jp/>

平成30年より精神障害者も法定雇用率に算入〈改正障害者雇用促進法〉

平成28年4月に改正された障害者雇用促進法では、〈合理的配慮の提供義務〉に代表される障害者の権利に関する条約の批准に向けた対応と、法定雇用率に精神障害者を加える算定基礎の見直しが2つの大きなトピックとしてあげられます。

障害者への差別禁止や合理的配慮義務については、すでに平成28年4月から改正法が施行されているので、すでに対応を始めている企業も多いと思いますが、具体的な例として政府では、

○車いすを利用する方に合わせて、机や作業台の高さを調整すること

○文字だけでなく口頭での説明を行うこと・口頭だけでなくわかりやすい文書・絵図を用いて説明すること・筆談ができるようにすること

○手話通訳者・要約筆記者を配置・派遣すること、雇用主との間で調整する相談員を置くこと

○通勤時のラッシュを避けるため勤務時間を変更すること

などをあげています。ただし、その対応に極端な設備投資が必要になるなど、事業主に対して過重な負担を及ぼすときは提供義務を負わないことも付記されています。

法定雇用率の算定基礎の見直しは、平成30年4月1日からの施行となっており、施行まであと1年数ヶ月となってきました。

法定雇用率は、すべての常用労働者数に占める常用雇用されている障害者と失業している障害者の合計数によって算出されるため、新たに精神障害者が加わるということとは、法定雇用率が上がることを意味します。現在の算定基礎である身体障害者と知的障害者の合計はおよそ467万人。精神障害者の合計がおよそ320万人ですから、単純計算ではおよそ1.4倍の法定雇用率になることが考えられます。

精神障害者は、病気の種類も症状も人それぞれで、バリアフリー化でほとんどの問題が解決できる身体障害者に比べて、一緒に働く周囲の人の教育や意識付けが大変重要になってくると考えられます。一方で精神状態さえ安定していれば、健常者と同程度と同じように働くこともでき、大きな戦力として期待することもできます。

いずれにしてもヒューマンスキルに依存するところが大きいだけに、社内研修会の実施や精神障害者の実習受け入れなど、早めの対応が求められるところです。



3Rはご存知ですか？そう、リデュース (Reduce)、リユース (Reuse)、リサイクル (Recycle) です！身の回りにある不要だけどそのまま捨てるのはもったいない、何かの代用にはならないかな？を元パタンナーMと元アパレル販売員Mの「WM (ダブルエム)」で、ちょっと役に立つ (…かもしれない) もものご紹介するという企画です。時にはまったく役に立たないものもあるかもしれませんが、そこはご愛嬌！ということで、どうぞ温かい目でお付き合いください。

さてさて、記念すべき第1回目は豪華2本立て！

「パタパタ雑巾」

材料：古くなったタオル1枚～2枚

1. タオルを半分に裁断し、繊維がボロボロ出ないように切り口を三つ折りにして縫います
2. 裁断したタオル2～4枚を重ね、中央で縫います



はい、完成です。1枚だと8枚の雑巾、2枚だと16枚の雑巾が出来上がりました。一般的な雑巾は裏表だけの2面で、使いながら何度も洗うのは面倒。でもこのパタパタ雑巾なら、多面で拭けて楽チンですよ。

「相方のいない靴下」

まだダメになっていないのに相方がいなくて履けない、穴が開いてしまって履けない、そんな靴下ってありませんか？そんな靴下の第2の人生を提案します！



お裁縫やお掃除が苦手な方にとってもお勧めで、あっという間に便利アイテムに変身します。

1. 靴下に手を入れる
2. ずるずると手首まで下げる

はいっ、完了！あとはサッシやエアコンの吹き出し口などをささっと拭いて、丸めてゴミ箱へ。汚れ具合によって、洗って繰り返し使うか、洗濯後古布としてリサイクル。相方がいなくても、どこかの国の工場でウエスとして活躍できるかもしれません。これもまた第2の人生です。

いかがでしたでしょうか。また今年のどこかでお会いしましょう！

割烹きみしま

大口の魅力を紹介する「大口自慢」。今回ご紹介するのは、創業33年の老舗「割烹きみしま」さんです。

大口駅西口から徒歩2分、暖簾をくぐるいつも仲の良い夫婦が出迎えてくれます。ランチは日替わり1種類のみで勝負！外の看板で本日メニューをチェック。同じ月に同じものは出さないという今日のメニューは、天ぷら・稲庭うどん・牛モツカレー。さらに常連さんのお好みご飯の量や好き嫌いまで把握しているという心遣い。常連さんが多いのも納得です！



日替わりランチ 850円

「ご主人と女将さんの呼び名は、マスター、ママ」。昔のお客さんが呼んでいたのがきっかけ。気軽に呼んでくれるのが一番だよ。」と笑顔のマスター。定休日は日・月曜日ですが、月曜は買い出しと下ごしらえをするので、実質のお休みは日曜だけ。「時には旅行の誘いもあるけれど、来てくれるお客様さんがいるんだから料理人は休むわけにいかない」とお客様第一のプロ魂がひしひしと伝わってきます。日本酒の種類も豊富で、夜は、新鮮なお刺身や季節を感じる一品料理をゆくり堪能できそうです。寒い冬にカラダが喜ぶ優しい和食を頂き、お会計を済ませる「ありがと、またいらっしやい」と優しいママの声。心も体も元氣になれそうです。



大口自慢

割烹きみしま

横浜市神奈川区大口通135の11

電話番号：045(421)1594

営業時間：昼11時30分～14時

夜17時～21時

定休日：日曜、月曜

Kyoshin TODAY

CSR報告会「ありがトウナイト2016」開催

11月18日(金)、弊社のCSR報告会「ありがトウナイト2016」を開催しました。3年目を迎えた今回も、約90名のお客様をお迎えし、プレゼンテーションやパネル展示により、新旧含めた1年間の活動報告を行いました。

特に今回は最後まで残ってくださった方が多く、さまざまな職種の壁を越えて、あちらこちらで突発的にダイアログが始まるなど、終始熱気に溢れていました。皆様からいただいた貴重なご意見やご相談に真摯に向き合い、新たな活動につながるよう社員一同努力して参ります。



第2回ボウリング大会開催

11月の土曜出勤日を利用して、今年もボウリング大会を開催しました。

昨年に引き続き、パートタイマーのみなさんとそのお子さん、今年受け入れたインターン生と社会人1年生になったインターン卒業生が集まりました。当社の新入社員もこの9ヶ月で随分大人になってきたと感じますが、何よりインターン

卒業生の成長した姿が見られたことがとても嬉しく、それぞれに社会でもまれて頑張っているのだなあと実感しました。

人事部に配属され、自分ができることを模索中の入、出力サービスプロバイダーになり、印刷から製本までひとりでこなしている人など、悩みながらも一生懸命働くインターン卒業生の姿がまぶしくもありました。

今後も継続して、これからもみんなの成長を見守っていきたいと思います。年に1度、成長したみんなに会える楽しみが増えました。

11月のありがとこの日は「手作りカレンダーキット」

帰宅までの時間を楽しく過ごせるようにと、大口台小学校放課後キッズクラブにカレンダーキット170部を届けました。月ごとにそれぞれ自由な絵を描き、自分や家族友達の誕生日にはケーキのシールを貼れるようにしました。世界にひとつだけのカレンダー上手にできたかな。



JO(ジェイ・オー)2017年1月号(第18号)

発行者：株式会社協進印刷

横浜市神奈川区大口仲町108番地

TEL：045(431)6611

FAX：0450(3730)6273

URL：http://www.kyoshin-pint.co.jp

